

田畑輪換への土壌炭素動態モデル RothC の適用：
水田用改良モデルと畑用モデルの併用で土壌炭素を精度良く予測

Use of the RothC Model in Paddy-Upland Rotation: Good Performance in Alternate Use of Paddy Soil
Version and Original Version

白戸康人* 矢ヶ崎泰海* 西田瑞彦**

Yasuhiro Shirato, Yasumi Yagasaki, Mizuhiko Nishida

1 はじめに

土壌炭素動態モデル RothC は簡便で性能が良く、土壌炭素量変化の将来予測に活用が期待されています。これまで、水田と畑それぞれで検証や改良が行われてきましたが、水田と畑として交互に利用される田畑輪換での検証はされていません。そこで、水田期間と畑期間の比率が異なる複数の田畑輪換の長期連用試験データを用いて、田畑輪換における RothC の検証を行いました。

2 成果の内容

秋田県の農研機構東北農業研究センター大仙研究拠点の水田圃場で行われた長期連用試験データに RothC を適用しました。連年水田区と、3 種の田畑輪換区、すなわち短期畑転換区（ほぼ大豆 1 年～水稲 2 年のサイクル）、中期畑転換区（大豆 3 年～水稲 1 年）及び長期畑転換区（18 年間連続で大豆作付期間あり）を対象に、それぞれ堆肥やワラの施用の有無などを組み合わせた計 14 処理区について計算しました。A) 水田用と畑用モデルの併用：夏作が水稲の年は水田用改良 RothC (RothC-26.3_p：水稲作付月は炭素分解率をオリジナルの畑用 RothC の 0.2 倍、他の月は 0.6 倍に改変) を、夏作が大豆の年はオリジナルの畑用 RothC (RothC-26.3) を使用した場合、B) RothC-26.3_p を毎年使用した場合、C) RothC-26.3 を毎年使用した場合、についてモデルと実測の適合度を評価しました。その結果、「水田用と畑用モデルの併用」の結果が最も良いことがわかりました（図 1）。次に、上記「水田用と畑用モデルの併用」におけるモデルの性能を、水田や黒ボク土畑など別の場所を対象とした既往のモデル研究と比較しました。モデルと実測の適合程度を、RMSE (Root Mean Square Error) と M (Mean Difference) の絶対値の 2 つの統計的指標（いずれも、値が小さいほど良い）で評価すると、上記の「水田用と畑用モデルの併用」のモデルの精度は、既往の「水田における RothC-26.3_p」および「黒ボク土畑における黒ボク土用改良モデル (RothC-26.3_v)」と同程度の高いレベルであることがわかりました（図 2）。これらのことから、「水田用と畑用モデルの併用」で、田畑輪換における土壌炭素量の経時変化を精度よく予測できると結論しました。

この結果は、日本の温室効果ガスインベントリの精緻化や、田畑輪換における適正な土壌肥沃度管理に活用可能と考えられます。

*農業環境インベントリーセンター Natural Resources Inventory Center, **農研機構東北農業研究センター NARO Tohoku Agricultural Research Center インベントリー, 第 11 号, p38-39 (2013)

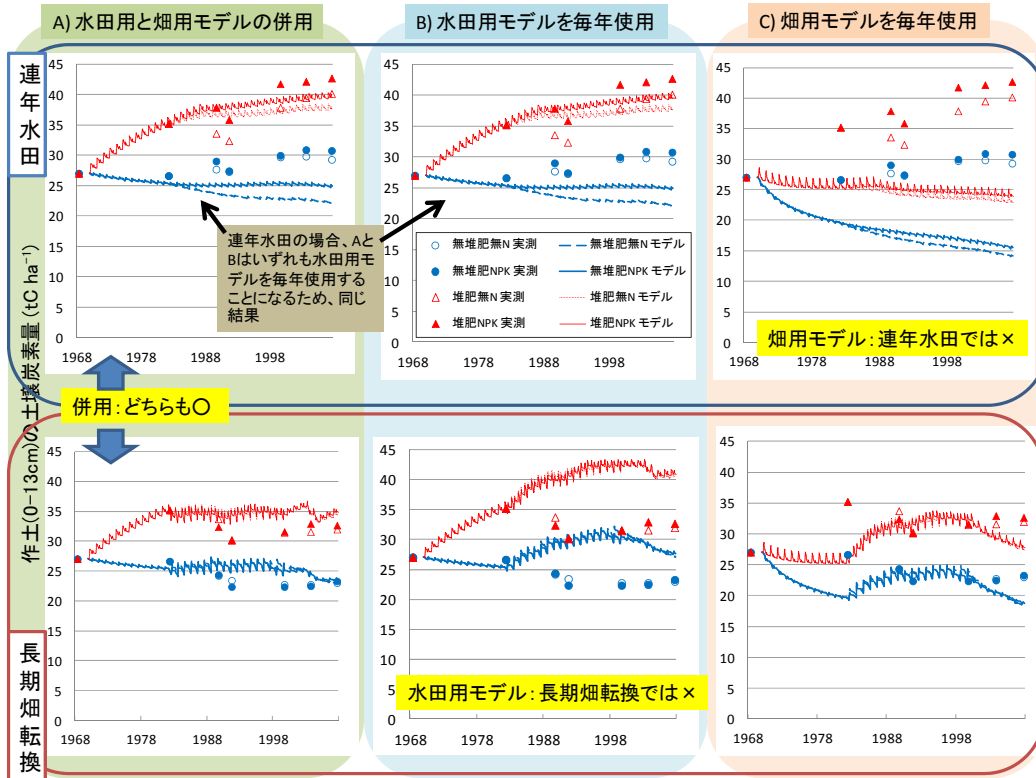


図1 田畑輪換における3パターンのモデルと実測の比較

2つのモデルの併用、すなわち、夏作が水稲の年は水田用改良 RothC (RothC-26.3_p : 水稲作付月は炭素分解率を0.2倍、他の月は0.6倍に改変)を、夏作が大豆の年はオリジナルの畑用 RothC (RothC-26.3)を適用した場合に、モデルと実測の一致程度が最も良いという結果でした。図には示していませんが、短期及び中期畑転換区でも同様の結果が得られました。

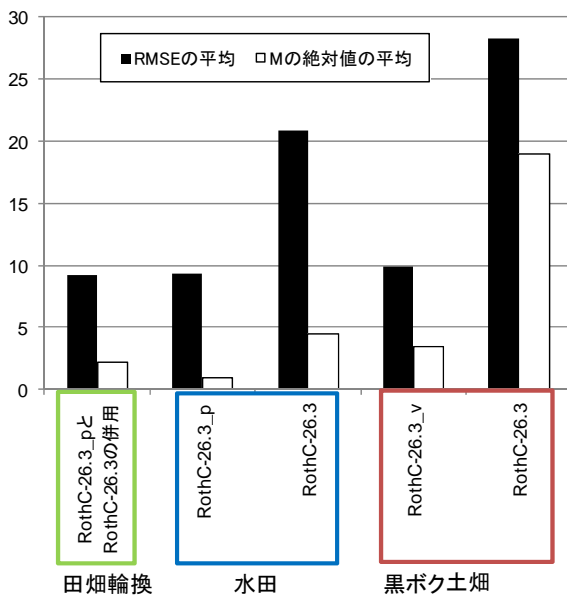


図2 別の場所(水田や黒ボク土畑)における既往の研究のモデル性能との比較

この研究の田畑輪換における「水田用 (RothC-26.3_p) と畑用 (RothC-26.3) モデルの併用」(左端)のモデルと実測の一致程度 (RMSEやMの絶対値)は、別の場所を対象とした既往の研究における、「水田における水田用改良モデル (RothC-26.3_p)」(左から2番目)や、「黒ボク土畑における黒ボク土用改良モデル (RothC-26.3_y)」(同、4番目)の結果と同程度の高いレベルであることがわかりました。

問い合わせ先

農業環境インベントリーセンター 白戸 康人
電話:029-838-8235, E-mail:yshirato@affrc.go.jp